

臨地実習指導者としての自部署の取り組み

6N 病棟 臨地実習指導者 川上 民



私が配属された 6N 病棟は呼吸器内科・循環器内科の病棟です。松山市民病院では平成 29 年度、臨地実習で延べ 6,000 名ほどの看護学生(1 部署 7 名程度)を受け入れております。今までは漠然と関わっていた臨地実習指導でしたが、学生にとってより効果的な実習指導が出来るように、必要な知識や技術・態度の習得を目指して保健師・助産師・看護師実習指導者講習

会に参加させて頂きました。

戴帽式直後の基礎実習から専攻科の統合実習に至る学生のレディネスをふまえた支援が整備され、2~3 週間の限られた実習期間の中で、学生達が目指したい看護師像を、この松山市民病院で見出してくれればと思っております。

次世代の看護を担う学生達に、専門職として看護職の魅力や日々のやりがいを感じて貰え

るように、少しでも伝える役割を担えればと考えております。

講習会で培った内容を、病棟スタッフや委員会メンバーとも共有し、病院全体で人材育成の体制を醸成させることで、看護学生支援が新人看護職員支援へと繋がり、互いに成長し合える仕組みを目指して、環境を整えてまいります。

臨地実習指導者としての自部署の取り組み

5S 病棟 臨地実習指導者 八百 智美



臨地実習は学内での学びを臨床の場において実践を積み重ねることで、自身の看護観を深め知識と経験を統合していく分野であり、実習指導者の役割は重要なものとなっております。

平成 29 年 9 月から 12 月の間、愛媛県看護協会では保健師・助産師・看護師実習指導者講習会に参加いたしました。以前は集中講義での構成でしたが、今回から分散講義へ変更

となり各病院からの参加が例年より 10 名程増加し、当院から 4 名参加させて頂きました。

研修受講前は学生と関わる中で、自分の指導内容や方法について不安や知識不足を感じることがありました。今回の研修で他施設の職員と新たなネットワークを築く機会を頂き、同じ悩みや目的を持つ仲間達と学べた経験が、これから臨地実習指導者を担う励みになっていると思っております。

5S 病棟は、内科(腎臓・透析、一般)・小児科・耳鼻咽喉科を担っており、在院日数 7 日以内の患者が 52.4%(平成 29 年)を占める病棟です。入院期間が短縮された患者さんとの関わりを通して、看護職への夢を支援し、講習会で学んだことを活かして、病棟スタッフと共に未来の同僚となりうる看護学生を育てていけるよう努めてまいります。

